



# 真秀場の郷から the art park in nature



堀 寛 太 朗 (ほり かんたろう)  
千葉大学 工学部 建築学科



1986年に開園した鳥取県初めての遊園地「鳥取プレイランド」。市街地から少し外れた山間に、地元出身の起業家が故郷への恩返しに、現在の鳥取市国府町に遊園地を建設した。しかし、1995年の阪神淡路大震災の影響を受け、わずか9年間という短い営業に幕を閉じた。その後、施設は13年間放置され続け、2008年にすべての遊具が撤去された。現在は不法投棄の温床地として、アスファルトに覆われた地面と荒れた風景の残る場所として存在する。私は故郷であるこの地にもう一度豊かな自然と人々がともに生きる芸術公園を計画する。

現在の地方都市が抱える人口減少に伴う街の衰退化。芸術公園はアーティストを呼び込み芸術文化を定着させ、地元のアーティストを育成する場を提供し、街に再び元気を取り戻させる。

## 講 評

作者の地元である鳥取県において、経済的破綻により放置された遊園地跡地を芸術公園として再生するという作品。この敷地に限らず、経済的破綻により放置された施設や場所は日本全国に数多く存在し、一つの社会問題であると考えられる。その土地固有の魅力を資源として建築をつくることで顕在化し、人を呼び込むこの試みは、建築の新たな可能性を見いだした作品であり、その提案は、地元への特殊解ではない、場所の「再生」のための一つの方法として評価できるものである。

また、敷地のもつ魅力を繊細に読取、建物を慎重に配置する作者の設計は、場所の持つ特徴を引出し、そこでしか経験できない空間体験を丁寧に作り上げている。一方で、経済破綻したこのエリアを始め、鳥取県の観光産業を盛り上げるためには、個々の建築の魅力だけでは解決できるのではなく、問題の根本に対し、「再生」するための説得力のあるストーリーや個々の建築のデザインだけではなくそれを繋ぎ止める仕掛けやソフト面が建築と寄り添ったかたちで提案がされているとさらにより作品となったのではないだろうか。

(審査委員：佐々木 達郎)